

## 『勇気を失わない人』 コリント人への手紙第二4章1～6節 2016.3.13(礼拝説教より)

『信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。…それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。』 ヘブル 12:2～3

◆伝道生涯の四分の一を獄中で過ごしたパウロは、「…どんな境遇でも満ち足りることを学んだ(ピリピ 4:11)」と語る。どんな状況でも元気を失わない秘訣は何か？◆「こういうわけで…あわれみを受けてこの務めに任じられているのですから勇気を失うことなく…(4:1)」と言う。かつて教会を迫害していたパウロは、神に赦されたばかりか、その神の愛を伝える者として召された時、文字通り「目からうるこの体験(使徒 9:18)」をした。人生の全ては、この神の憐みにより導かれ、委ねられたものと知り、「今(現状)」の全てに神の最善と助けがあるので、どんな困難や試練があろうと勇気を失わない！と言えた。あの両腕、片足欠損で生まれた世界的に有名なゴスペルシンガー・レーナ・マリヤさんも「この特別な体の私には、神様の特別な計画があった」と感謝に溢れて神を賛美した！

◆次にパウロは、「この世の神が不信者の思いをくرامせ…福音の光を輝かせないようにしている(4:4)」と語る。イエス様も、種まきの例え(ルカ 8:5～)で「人々が信じて救われないように、悪魔が御言葉を持ち去ってしまう」と教えた。御言葉を心に刻み、神の愛と救いを確信する人に、悪魔は指一本手出し出来ない！パウロは、悪魔が神の愛を疑わせ、「今」、神の最善と助け…があることを信じられないようにしていると知ったので、人や世に失望せず、背後のサタンに照準を定め、全能の神の勝利を疑わずに祈り、元気を失うことがなかった！

◆最後に、パウロは、キリストを通して神の愛を確信したので、勇気を失わなかった。「光が、やみの中から輝き出よ」と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです(4:6)。」天地創造の時、混沌とした暗闇で、創造主が「光あれ」と叫ばれた時、闇は消えた！どんな絶望的な状況でも、キリストの十字架を仰ぐ時、神の愛が輝く！どんな暗い心の人にも、キリストの希望の光が差し込んでくる！光が射し込むと闇は消え、光に闇が射し込むことは決してない！

★今週、現状に神の最善を信じ、悪しき者から守って下さるお方を知り、神の愛が輝くイエス様の十字架を常に仰ぎ、勇気を失わずに歩ませていただこう！